

## 芦田和雄君を偲ぶ

二十一回生 平田 坦

千里第二小学校で同級生になって以来、芦田和雄君とは実に60年を越える長きにわたって実に親しいお付き合いをさせてもらいました。

彼の仲間内での呼称は、少年時代から現在まで首尾一貫「芦田のカーハン」或いは「カーハン」です。その呼び方には友人たちからの彼に対する親しみと信頼感が籠められています。

【千二小での担任だった東谷勝司先生に彼の訃報を電話で連絡をしました処、先生が「カーハンがなあ」と寂びしそうにため息をつかれました。先生にとっても芦田和雄君はカーハンでした。】

春から夏にかけては一緒に新田や佐井寺の溜め池で鮒釣り、時には遠く牛ヶ首池までも遠征しました。

夏休は連日郊外学園の濁った水のプールで遊び、秋には裏山の柿盗りプロジェクト、冬はマキノや伊吹山でのスキーと少年時代はとにかくいつも一緒に遊びま

年時代と変わらぬカーハンでした。

思い出深い千里山時代の生活を懐かしみ、東京での千里山会には欠かさず遠路高槻からやってきて旧知の人たちとの交流を楽しんでいましたが、その様子を記憶されている方も多いかと思えます。

あの元氣一杯で好人物だったカーハンが、後年、4年に亘る闘病生活で辛い日々を送る事になってしまったのは、私たちの目から見ると実に理不尽な気がします。ただ、闘病生活を通じて奥様をはじめとしてご家族が愛情深く、木目細かい看病に専念される様子に接し、その絆の強さに感動させられました。暖かいご家族の心遣いに感謝しつつこの世を去っていった事でしょう。

今は、高い処からご家族や我々を見守ってくれているのでしょうか？

それとも千の風になって私たちのまわりを吹き廻っているのでしょうか？

ご冥福をお祈りいたします。

わっていました。ジョン・ウエインやジェームス・スチュアートの西部劇に夢中になり受験勉強のさなかでも二人して時間を惜しみながら映画館に出かけたものでした。大学は別々でしたし専攻も異なりましたが、親密な交流は続き、あちらこちらと国内旅行をしたり山登りをしましたし、社会人になってからはヨットやゴルフに興じたりと思えばは尽きません。

私以外にも多くの友人があり、積極的にいろいろなグループに参加していました。ただ、決してガキ大将として君臨するのではなく仲間の一人として交友を築しむと云う姿勢でした。今、思い起してみると、私は、この様に友人の気持ちに大切にし協調を重視すると云う彼の性格に惹かれていたのだと云う気がしています。一緒にいる時、肩に力を入れる必要はなく、有るがままの自分を出して構わない、それで心が和むのでした。

ある時期から猛勉強を開始して京都大学への入学を果たし、薬学部を卒業後、藤澤薬品工業に就職しましたが、早々に能力を認められて、東京大学、さらにアメリカのカンザス大学での研究の機会を与えられたエリート社員でした。それにも拘わらず、その様な事を自慢げに吹聴する事はまったく無く、いつ会っても少

編集部より

平田さんの追悼文にある、奥様はじめご家族が愛情深く懸命に看病された箇所を読んで思い出しました。

もう四年近く前のことだったのでどうか、弟さんの29 芦田英雄さんと、千里山会のこと電話でお話した時のことです。偶々兄上のご病気の話になり、歩行がご不自由なので二階との階段の上り下りに難儀されていると聞きました。

千里ニュータウンに住む従兄が同じ問題を抱え、普通の木造住宅の階段に昇降機を設置したのを思い出しました。エレベーターやエスカレーターがない駅で、階段の端に設置されているものの簡易版です。

その話をしたところ良いアイデアなので考えてみますと云うことで、実際に情報がお役に立ったかは知らないのですが、兄上のことをいろいろ心配されていることに感銘を受けました。

奥田記